る。茲に於て精神總動員の原動力は大日蓮の息吹の顯揚、即ち日蓮によりて開發せられた日本の法華經を益〻發揮せしむるにある。之吾等門徒の大使命である。「日本とは日蓮なり」の信念は其儘吾等の信念としなければならない。そして萬民一同に南無妙法蓮華經と唱へしむるこそ眞の總動員であり、世界の軸心たる日本の使命は建設されるのである。ここに於て叫ぶ。八紘一宇正法廣布の理想を有する法華經徒の奮起や今正に是の時なり躍起せよ！

最後に私は謂ひたい。世界の軸心は日本にあり日本の軸心は日蓮にあり、されば世界とは日蓮なり、之又吾等の信條に非ずして何ぞ！　と。

落葉斷想

畑　嬌　作

落葉、それは目に見えぬ季節を秋から冬へと誘ふ傳達者だ。落葉には何か言ひ知れぬ淋しさがある。その淋しさに私は愛着を持つ。秋は落葉と倶にある。

靜かな秋の夜獨り机にもたれて、忍びよるやうな落葉の風にころがる音を聞く。消えるともなく消え起るともなく起る音。落葉の秋はここにもあると思ふ。

夕映えの空に亭々と聳える山道の銀杏の黃葉、夕陽に輝きながら散る落葉。山路に敷きつめた黃金色は黃昏れてあたりが暗くなつても明るい。その明るさ、私はそれに淋しさを感ずる。落葉の秋はここにもあると思ふ。

朝霧罩めた山に點綴する紅葉、霧は紅葉の奥深さを敎へてくれる。そして落葉には霜がさむ〳〵と白い。落葉は眞赤だ。落葉の秋はここにもあると思ふ。

叱られて背戸に出て涙をふいて居た夕方、裏山に散る落葉を如何に寂しく思つたことか。山鳩が啼いて居たつけ。落葉は私の涙より多かつた。落葉の秋はここにもあると思ふ。

庭の落葉を掃いて焚く朝、太陽は霧の中だ。霜にぬれた落葉の煙が白く上る。落葉の秋はここにもあると思ふ。

風に吹かれて路に舞ふ落葉。夜の闇に人の足音とまがふ落葉。空に舞ひ地にころがる落葉。落葉の秋はここにもあると思ふ。

山影路の埋もれた落葉の中に、コホロギが消ぬがに鳴いて居る。私はその寂寥さを好む。コホロギの聲が落葉を寂しく思はせるのか、落葉がコホロギを寂しくするのか、それは知らない。唯落葉に感じた秋の淋しさが一層この時深く感ぜられる。落葉の秋はここにもあると思ふ。

一葉、一葉散る毎に秋の消息を絶つ落葉、然し私の落葉に對する愛着は盡きない。又盡きたくないのである。落葉、落葉。